



# ほほえみ



## 市立病院の放射線科

放射線科 技師長 阿部 正己

皆さんは、放射線科でどのような検査が行われているのかご存じですか。放射線科は大きく診断と治療に分けられます。治療は放射線を使って行う部門で、昨年9月発行の「ほほえみNo.21」で紹介しましたので、今回は診断の部門をご紹介します。

「診断」は文字が表すとおり病気を見つけるための検査をしています。皆さんに一番馴染みのあるのは、レントゲンと言われる胸部、腹部や手足の撮影をする一般X線撮影でしょう。X線を当てて身体を透過してきた画像を診断に役立てています。

CT検査も知っている方が多いと思います。身体を薄く輪切りにした画像を集めて縦切りにした画像(冠状断像)を作った

り、造影剤という薬を使って血管の画像(血管構築)を作ったりできます。また、心臓の冠動脈、大腸の検査(コロノグラフィ)などでもできるようになってきました。

CT検査と少し似ている画像が撮影できるのがMR検査です。MRは放射線を使わない検査で、磁石とマイクロ波を使って撮影をします。また、CTのように輪切りだけでなく、いろいろな方向の断層画像を撮影できるのもMRの特徴です。脳梗塞などでは初期の段階で診断できますし、造



コロノグラフィ(CT)



血管構築(CT)



冠状断像(CT)

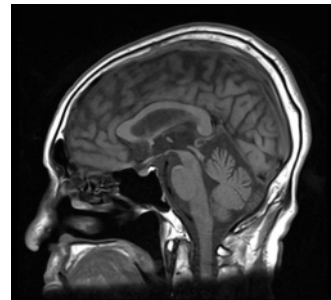
発行 越谷市立病院  
 発行人 院長 丸木 親  
 編集 院内情報誌編集委員会  
 連絡先 〒343-8577  
 越谷市東越谷10-47-1  
 電話 048-965-2221 (代)  
 F A X 048-965-3019  
 発行日 平成27年10月 (No.25)

影剤を使わずに血管の画像を撮影できます。

皆さんはあまりご存じないと思います。が、核医学検査(RI検査)もあります。放射性医薬品と言う薬を使って、いろいろな検査ができます。脳の血液の流れを画像にして認知症や脳梗塞の診断をしたり、ドーパミントランスポータと言うものを撮影してパーキンソン病や認知症の鑑別を行ったり、骨や心臓の検査など多くの検査が行えます。

乳がんの診断のためのマンモグラフィ(乳房撮影)は、当院では女性技師のみで行っています。

その他、バリウムを使った胃や腸の消化管検査、精度の高いDEXA法を用いた骨密度検査、造影剤を用いて血管の撮影や治療を行う血管造影検査などを行っています。



頭部の矢状断像(MR)



頭部の血管像(MR)

## 弱視とは？

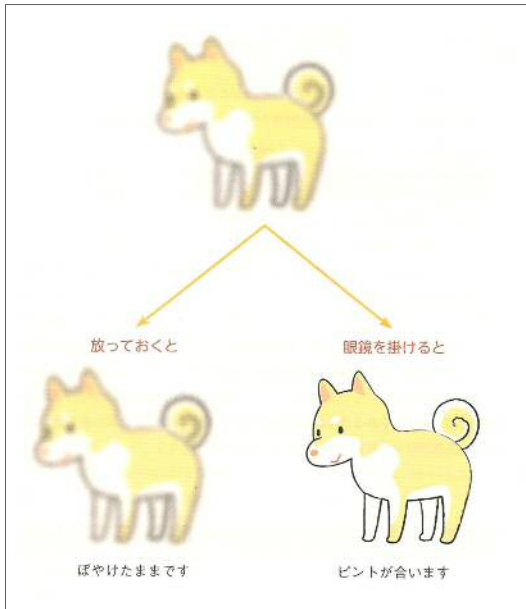
眼科 医師

川守田 珠里

通常、子供の視力は生まれた直後で0.02程度、1才で0.1程度、その後3才頃までの間に1.0まで発達します。しかし、視力の発達が遅れて、メガネをかけても十分に視力が出ない場合があります。これを弱視と言います。原因としては次のようなものがあります。

① 屈折異常・・・遠視、乱視、不同視  
(いわゆるガチャ目)

網膜にピントがきちんと合わないため視力が発達しない。



## ② 斜視

ずれている目を使わなくなるため視力が発達しない。

## ③ その他

先天性眼瞼下垂、白内障などの病気のため網膜に十分な刺激が入らず視力が発達しない。



弱視の治療は視力が発達しやすい3才〜8才頃の間に行うと効果的です。9才以降になると治療を行っても効果が出にくくなります。

弱視の治療では基本メガネをかけます。メガネだけで発達しない場合は、アイパッチによる遮蔽訓練しゃいべんと言って、視力の良い方の目を隠し、視力の悪い方の目でものを見る訓練をします。このような訓練を家庭でしっかり行うことが弱視の治療では大切になってきます。

弱視かどうかは日常生活では気づきにくく、3歳児健診での視力検査が重要です。3歳児健診は必ず受けるようにし、視力の異常を指摘された場合は、早めに眼科を受診しましょう。

## 新採用医師の紹介

○7月1日付

(小児科)

じんぼ けいすけ  
神保 圭佑

(整形外科)

なりみや とくろう  
成宮 徳朗

(整形外科)

ふくさと しん  
福里 晋

○8月1日付

(呼吸器科)

せきもと やすひと  
関本 康人

○9月1日付

(呼吸器科)

こばやし いさお  
小林 功

(脳神経外科)

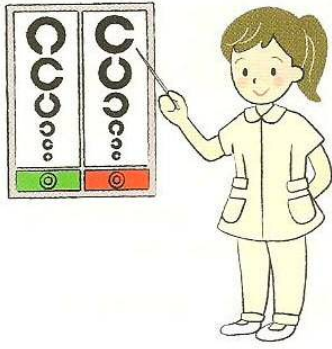
かわむら かいと  
川村 海渡

## 視能訓練士と弱視視能訓練

眼科 認定視能訓練士

須藤 美穂子

視能訓練士とは、眼科で医師の指示のもとに視力・視野・色覚・眼位・眼球運動・眼底写真などの視能検査や弱視の訓練を行う国家資格を持つ医療技術者です。視能訓練士は現在日本に11,285名おり、そのうちの309名が認定視能訓練士です。認定視能訓練士になるためには、免許取得後5年以上の臨床経験と学会・講習会への参加、試験に合格することが必要です。また、合格後も臨床経験と指定の学会・講習会へ参加をすることで5年毎の更新制になっています。



当院には3名の視能訓練士が勤務しており、うち1名が認定視能訓練士です。

弱視視能訓練は、適切な眼鏡を装用し（必要に応じて遮蔽具しゃへいを使用）、小さい絵や字を見つける・迷路・ビーズ・シール貼りなど細かい作業をして視力の発達を促します。

病院で行う訓練だけでなく、家庭で毎日継続して訓練を行うことが大切です。そのためには、日常の身近なもので、興味の持てるものを訓練に取り入れていくことが重要になってきます。

また、周囲の大人が眼鏡や遮蔽具しゃへいを使用している治療中であることを理解し、子どもの安全を確保し、精神的にもサポートしていく必要があります。

当院では、視能訓練士が保護者の方と相談しながらお子さんに合った弱視視能訓練が出来るようにお手伝いをしています。

### 【参考文献】

眼科ケア2014年冬期増刊(メデイカ出版)



眼鏡と遮蔽具の併用



眼鏡に装着するタイプの遮蔽具

## 編集後記

今回の「ほほえみ」は、眼科医師と視能訓練士の文書が掲載されました。

院内情報誌編纂委員長の私も眼科医なので一緒に働いている仲間の記事がたくさん載ってとてもうれしいです。弱視を説明してくれた川守田先生は、今年の4月より当科勤務になったばかりの先生です。手術もとても上手で、外来診療も素敵な笑顔で患者様に優しく説明をしたり、お話しを聞いてくれます。視能訓練士さんは、育休明けでこれもまた4月から復職したばかりです。ブランクを感じさせずバリバリ検査をこなしてくれています。

今、眼科はメンバーが増えチームワークアップで頑張っています。



院内情報誌編纂委員長 尾羽澤 英子